

平成29年度環境こだわりキャベツ栽培こよみ(しずはま2号)

JAおうみ富士
大津・南部農業農村振興事務所

作型	6			7			8			9			10			11			12			1		2											
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中									
麦跡 「品種:しずはま2号」	播種						定植						収穫																						
労働時間(/10a)				4	6	20	3	1	2	1	1	1	10	10	10										2										
主な作業 (育苗)							液肥散布 病害虫防除①	病害虫防除③																											
主な作業 (本ば)	堆肥施用 耕転			基肥施用 畝立			病害虫防除②			除草剤散布			追肥① 中耕			病害虫防除④			追肥② 病害虫防除⑤			病害虫防除⑥			病害虫防除⑦			病害虫防除⑧			病害虫防除⑨			残さすき 込み	



1. 栽培のポイント

- 省力化と生育の揃いや活着を良くするためにセル苗を利用する。
- 若苗を定植し、初期生育の促進を図る。
- 排水が良く、根こぶ病の発生のおそれがないほ場を選定する。
- 結球始期に最も肥料を必要とするので、適期追肥する。
- 害虫の発生が多い時期なので、生育期間を通じて病害虫防除を徹底する。
- 高温・乾燥時にカルシウム欠乏が出るおそれがあるので、晴天が続くほ場が乾燥する場合は、畝間かん水など、適宜かん水作業を行う。

2. 栽培の手順

1) 種子準備

セル成型育苗に必要な資材

(10a)

種子(コート)	セルトレイ(128穴)	水稻育苗箱	育苗培土
5,000粒	40枚	40箱	3.5袋(与作N150)

2) ほ場準備

- 顔縁にしっかり明渠を入れる、尻水戸が低くなるように、排水溝と連結するなど排水対策を徹底する。
- 機械定植する場合の苗の植え付け精度や除草剤の効果を高めるため砕土を十分する。
- 堆肥が準備できる場合は、定植1ヶ月前までに散布し耕転しておく。
- 定植2週間前までに、発酵鶏ふん、粒状苦土石灰、BM重焼リンを散布しておく。
- 畝立て前に、BMスペシャル有機、油かすを散布して耕転しておく。
- できるだけ定植直前に、畝立て成形機で畝を立る。

施肥設計例 [化学肥料窒素成分16kg以内]

(kg/10a)

資材名	全量	基肥	追肥1	追肥2	化学窒素成分量
発酵鶏糞	210	210			0
粒状苦土石灰	100	100			0
BM重焼リン	20	20			0
BMスペシャル有機280	60	60			6.6
油かす	140	140			0
野菜有機S4号	70		30	40	8.8

3) 播種・育苗

- 育苗培土(与作N150)をセルトレイに均一に入れる。
- トレイを並べ、鎮圧板で穴をあけ、各穴にコート種子を1粒ずつ播く。
- 播種後は、パーミキュライトで覆土し、底から水が出るまでたっぷりかん水する。
- セルトレイを底面給水のマットの上に並べる
- 育苗ハウスは、寒冷紗等で50%程度遮光をする。
- トレイへのかん水は底面給水により行う。
- かん水は自動化できるが、天気や湿度具合によって調整する。(かん水の目安:晴天日で午前1回・午後1回、曇天日は1回)
- 肥料が切れる場合は、500倍の液肥で追肥する。

4) 定植

- 育苗日数25日、本葉2.5葉で定植する(根鉢が十分に巻いたら定植可能)。
- 株間33cm、条間50cmで定植し、定植後は充分灌水する。
- 畝幅が1.35m以下となる場合は株間35cmとする。
- 定植後、活着するまでは萎れないようにかん水する。
- 鱗翅目やアフラムシ類の害虫防除のために定植前に、登録内容に従い、必ず苗へ薬剤灌注処理を行う(ペリマークSCはアフラムシ類にも登録あり。フレバソンプロアフル5は鱗翅目への登録のみ)。

畝幅	株間	条間	10%当たり株数	条数
>1.4m	33	50cm	4000~4300	2条植え

5) 追肥、中耕

- 1回目は、定植14日後に条間に施肥し中耕する。
- 2回目は、結球始期(結球部が握りこぶし大の時に)施肥する。この時期の栄養状態がキャベツのサイズに大きく影響するので遅れないよう適期に行う。
- 3回目は必要に応じて油かすを施肥する(肥料が葉にのると肥料焼けするので注意する)



結球始期

6) 収穫

- 玉を軽く押さえて、しっかり結球した株から収穫する。(目標重量:1.2kg以上/個、Lサイズ中心)。
- 外観は収穫できるように見えても時期が早いと十分に結球していないことがあるので注意する(写真参照)。
- 収穫の時は外葉1枚を付けておく。
- 出荷先は市場。



外観



結球不十分



収穫期

7) 病害虫防除、雑草対策

- 定植後8日以内に必ずラッソー乳剤を散布する(翌日雨が降る日は避け、散布は乾きの早い日中に行い、夕方以降の散布は避ける)。
- 発生初期に防除を徹底する。
- 結球始期に必ず防除を行いキャベツ内部への害虫の侵入を防ぐ。
- 排水の悪いほ場、肥切れは病害の発生を助長するので注意する。
- 台風通過後は必ず殺菌剤(カスミンボルドー)で防除する。
- タネ科雑草などの種が結球内に入るとクレームの対象になるので注意する。



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



ハイマダラ/メイガ



アオムシ



菌核病



黒腐病



根こぶ病



イヌタテ

除草剤

平成29年6月14日現在の登録内容

適用雑草名	農薬名	10%当たり使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分数
一年生雑草	ラッソー乳剤	150~200ml (100L/10a)	定植8日後まで	1回	1

※農薬使用の際は必ずラベルを確認し、記載事項に従い使用する。

病害虫防除体系例(除草剤を含めて9成分)

平成29年6月14日現在の登録内容

病害虫防除体系	農薬名	希釈倍数	収獲前日数(使用時期)	本剤の使用回数	成分数
病害虫防除①	スタークル顆粒水溶剤	2,000~3,000倍	収獲3日前まで	2回以内	1
病害虫防除② (連作時)	フロンスイトSC	薬量:500ml/10a 希釈水量:100~200L/10a	播種または定植前	2回以内 (苗床1、本ば1)	(1)
病害虫防除③ (どちらかを選択)	ペリマークSC	400倍	育苗期後半~定植当日	1回	1
	フレバソンプロアフル5	100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り0.5L		
病害虫防除④	モスピラン顆粒水溶剤	1,000~2,000倍	収獲7日前まで	5回以内	1
病害虫防除⑤	カスケード乳剤	2,000~4,000倍	収獲7日前まで	2回以内	1
病害虫防除⑥	フレバソンプロアフル5	2,000倍	収獲前日まで	3回以内	1
病害虫防除⑦	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期、但し収獲前日まで	—	0
病害虫防除⑧	アフーム乳剤	1,000~2,000倍	収獲前日まで	3回以内	1
	ダコニール1000	1,000倍	収獲14日前まで	2回以内	1
病害虫防除⑨	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期、但し収獲前日まで	—	0
害虫多発時	フレオフロアフル	1,000倍	収獲7日前まで	2回以内	(1)
台風経過時	カスミンボルドー	1,000倍	収獲7日前まで	4回以内	(1)

※農薬使用の際は必ずラベルを確認し、記載事項に従い使用する。防除は、発生状況に応じて適宜行う。